

## 2021年3月期 決算短信(日本基準)(連結)

2021年5月13日

上場会社名 宝ホールディングス株式会社  
 コード番号 2531 URL <https://www.takara.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 睦  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務・IR部長 (氏名) 宇佐美 昌和 TEL 075-241-5124  
 定時株主総会開催予定日 2021年6月29日 配当支払開始予定日 2021年6月30日  
 有価証券報告書提出予定日 2021年6月29日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期の連結業績(2020年4月1日～2021年3月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期	278,443	1.0	21,595	36.4	21,929	34.8	10,574	17.7
2020年3月期	281,191	1.4	15,836	11.1	16,269	11.4	8,980	13.7

(注) 包括利益 2021年3月期 16,320百万円 (152.3%) 2020年3月期 6,467百万円 (10.8%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利 益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2021年3月期	53.48		6.9	7.4	7.8
2020年3月期	45.11		6.1	5.7	5.6

(参考) 持分法投資損益 2021年3月期 123百万円 2020年3月期 81百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期	306,918	191,535	51.1	793.53
2020年3月期	283,882	181,329	52.1	747.39

(参考) 自己資本 2021年3月期 156,884百万円 2020年3月期 147,762百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年3月期	27,100	6,738	1,506	62,860
2020年3月期	11,744	3,690	11,653	44,541

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2020年3月期				20.00	20.00	3,954	44.3	2.7
2021年3月期				21.00	21.00	4,151	39.3	2.7
2022年3月期(予想)				22.00	22.00		36.6	

(注) 2021年3月期における1株当たり期末配当金については、20円から21円に変更しております。詳細については、本日(2021年5月13日)公表いたしました「剰余金の配当に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	127,000		10,600	83.3	10,800	81.8	5,400	95.5	27.31
通期	264,000		22,600	4.7	23,000	4.9	11,900	12.5	60.19

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、売上高については、対前期及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。なお、その他の連結業績予想につきましては、「収益認識に関する会計基準」等を適用することによる影響はございません。

## 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期	199,699,743 株	2020年3月期	199,699,743 株
2021年3月期	1,995,468 株	2020年3月期	1,995,163 株
2021年3月期	197,704,467 株	2020年3月期	199,062,788 株

期末自己株式数

期中平均株式数

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。なお、連結業績予想の詳細及びセグメント別の業績予想につきましては、「決算短信補足資料」PAGE10/18～13/18に掲載しております。

(決算説明会内容の入手方法)

当社は2021年5月18日(火)に機関投資家・アナリスト向け説明会(Web)を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、説明会終了後遅滞なく当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	5
(4) 今後の見通し .....	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	6
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	7
(1) 連結貸借対照表 .....	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	9
連結損益計算書 .....	9
連結包括利益計算書 .....	10
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	13
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	14
(継続企業の前提に関する注記) .....	14
(連結損益計算書関係) .....	14
(セグメント情報) .....	15
(1株当たり情報) .....	17
(重要な後発事象) .....	17

## ○ 決算短信補足資料

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、緊急事態宣言の発出などにより個人消費も影響を受けるなど、総じて低調に推移いたしました。海外においても新型コロナウイルス感染症の爆発的流行に加え、米中貿易摩擦の長期化、英国のEU離脱等の影響により世界経済の先行きは不透明な状況が続いております。

このような経済状況の中、当社グループは、2020年5月に公表した長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100<sup>th</sup>」の実行計画の第1ステップとしての「宝グループ中期経営計画2022」に取り組んでまいりました。新型コロナウイルス感染症の影響を注視し環境変化に柔軟に対応しつつ、強化すべき領域へ経営資源の配分と投下を行い、収益力を高める多様な「価値」を生み出し続ける事業構造とグローバルなコーポレート機能の再構築に注力してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高278,443百万円(前期比99.0%)、売上総利益115,594百万円(前期比106.4%)、営業利益21,595百万円(前期比136.4%)、経常利益21,929百万円(前期比134.8%)、親会社株主に帰属する当期純利益10,574百万円(前期比117.7%)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 〔宝酒造〕

国内の人口減少や高齢化の影響などからアルコールの総消費数量は減少傾向が続く中、コロナ禍による料飲店等の営業自粛に伴う外食需要の低迷と、いわゆる巣ごもり需要とによりカテゴリー間で大きなばらつきがありました。このような状況のもと、宝酒造は、新型コロナウイルス感染症の感染予防、拡大防止を最優先しつつ、食品メーカーとして安全・安心な商品を安定的に供給することに努めました。また、コロナ禍による消費行動の変化に迅速に対応する生産活動、営業活動に取り組みました。

当セグメントのカテゴリー別の売上状況などは次のとおりであります。

焼酎では、本格焼酎の“全量芋焼酎「一刻者」”などが料飲店の営業自粛で大きく影響を受けましたが、甲類焼酎の大容量製品や“極上<宝焼酎>”などで家庭内需要の増加を取り込むことができ好調に推移し、焼酎全体では若干の減収に収まりました。清酒では、業務用ルート専売の“松竹梅「豪快」”が大きく減少し、“松竹梅「天」”、“松竹梅白壁蔵「霽」スパークリング清酒”なども減少したため、清酒全体では減収となりました。ソフトアルコール飲料では、辛口チューハイ“タカラ「焼酎ハイボール」”が家庭内需要増加の影響もあり、引き続き好調に推移いたしました。また、こだわりのレモンサワー“寶「極上レモンサワー」”も規模は小さいながら、大きく伸長し、ソフトアルコール飲料全体では増収となりました。調味料では、本みりんが減少したため、料理清酒やその他調味料などが健闘いたしました。調味料全体ではわずかながら減収となりました。原料用アルコール等では、消毒用需要の急増に応え生産量を増やして供給に努めたこと等により、増収となりました。

以上の結果、宝酒造の売上高は、152,537百万円(前期比99.6%)となりました。売上原価は、徹底的なコスト削減に取り組んだものの、売上高に準じた減少にとどまり、92,439百万円(前期比99.6%)となり、売上総利益は、60,098百万円(前期比99.6%)となりました。販売費及び一般管理費は、コロナ禍で販売活動が制限されたことに加え諸経費の節減にも努めたため、55,218百万円(前期比98.4%)と減少し、営業利益は、4,879百万円(前期比116.9%)と増益となりました。

#### 〔宝酒造インターナショナルグループ〕

宝酒造インターナショナルグループは、日本からの酒類の輸出や海外各地で酒類の製造・販売を行う海外酒類事業と海外の日本食レストランや小売店に日本食材などを販売する海外日本食材卸事業を展開しており、新型コロナウイルス感染症の拡大による主要都市のロックダウンなどの影響を大きく受けました。グループ会社の一部では地方政府等の指示を受け、工場の操業停止や出社の抑制を実施したことに加え、主要な得意先であるレストランの営業停止などにより業績は大きく落ち込みました。

当セグメントの売上状況などは次のとおりであります。

**海外酒類事業**

海外では、ウイスキーはプレミアムバーボン“ブランソン”が好調に推移し、ウイスキー原酒も売上を伸ばしました。一方清酒など和酒の売上がコロナ禍の影響を大きく受け減少し、日本からの輸出も減少したため、海外酒類事業の売上高は10,340百万円(前期比91.0%)となりました。

**海外日本食材卸事業**

最もコロナ禍の影響を受けた当事業では、レストランの営業停止等の事業環境の変化に対応し、デリバリーやテイクアウトへの対応商品の提案に加え、小売店向けの販売強化やネット販売の拡大などに努めました。しかしながら地域による差はあったものの総じて販売は低調に推移し、海外日本食材卸事業の売上高は60,517百万円(前期比82.5%)となりました。

以上の結果、セグメント内取引消去後の宝酒造インターナショナルグループの売上高は、69,589百万円(前期比84.1%)となりました。売上原価は、在庫管理の徹底などにより48,983百万円(前期比83.2%)にとどまりましたが、売上の減少により売上総利益は、20,605百万円(前期比86.3%)となりました。販売費及び一般管理費は、人件費や物流費、販売促進費などの削減により19,562百万円(前期比96.1%)となり、営業利益は、1,043百万円(前期比29.5%)と大幅な減益となりました。

**[タカラバイオグループ]**

タカラバイオグループは、研究用試薬・理化学機器事業とCDMO事業を通じ、バイオ創薬基盤技術開発を進め、新モダリティを継続的に創出する創薬企業を目指した取り組みを推進しました。また、新型コロナウイルスのPCR検査関連製品の安定的な供給や、ワクチンを含む再生医療等製品の製造体制整備等に積極的に取り組みました。

バイオテクノロジー関連分野の研究開発活動がますます広がりを見せるなか、タカラバイオグループは、こうした研究開発活動を支援する製品・商品やサービスを中心に展開するバイオ産業支援事業をコアビジネスと位置づけております。また、遺伝子医療事業では、がん等の疾患を対象とし、腫瘍溶解性ウイルスcanerapturev(略称C-REV)や、独自技術である高効率遺伝子導入技術レトロネクチン法、高効率リンパ球増殖技術であるレトロネクチン拡大培養法、siTCR<sup>®</sup>技術を使用した遺伝子改変T細胞療法等の遺伝子治療の臨床開発を進めております。

タカラバイオグループの売上高は、遺伝子医療が前期比で減少したものの、研究用試薬、理化学機器、受託サービスが前期比で増加いたしました。研究用試薬および理化学機器では新型コロナウイルスのPCR検査関連製品が増加の一因となりました。以上の結果、売上高は、46,086百万円(前期比133.3%)となりました。売上原価は、売上構成の変化や生産稼働率の向上等により原価率が低下し、14,214百万円(前期比105.6%)となりましたので、売上総利益は、31,872百万円(前期比151.0%)となりました。販売費及び一般管理費は、研究開発費等が増加し、17,919百万円(前期比120.8%)となり、営業利益は、13,952百万円(前期比222.4%)と大幅な増益となりました。

**[その他]**

その他のセグメントは、不動産賃貸事業や国内グループ会社の物流事業などであり、当セグメントの売上高は、29,238百万円(前期比91.9%)となりました。売上原価は、25,558百万円(前期比92.2%)となり、売上総利益は、3,680百万円(前期比90.5%)となりました。販売費及び一般管理費は、1,876百万円(前期比91.6%)となり、営業利益は、1,803百万円(前期比89.3%)となりました。

## 品種別販売実績

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	前年 同期比
品種	金額 (百万円)	金額 (百万円)	(%)
宝酒造			
焼酎	49,728	48,631	97.8
清酒	20,488	17,706	86.4
ソフトアルコール飲料	43,155	47,154	109.3
その他酒類	6,272	5,573	88.8
本みりん	13,980	13,367	95.6
その他調味料	10,330	10,441	101.1
原料用アルコール等	9,183	9,663	105.2
計	153,141	152,537	99.6
宝酒造インターナショナルグループ			
海外酒類	11,365	10,340	91.0
海外日本食材卸	73,371	60,517	82.5
その他	204	57	27.9
グループ内連結消去	△2,175	△1,326	—
計	82,765	69,589	84.1
タカラバイオグループ			
研究用試薬	24,840	35,189	141.7
理化学機器	1,242	1,726	139.0
受託サービス	6,186	8,901	143.9
遺伝子医療	2,295	268	11.7
計	34,565	46,086	133.3
報告セグメント計	270,472	268,213	99.2
その他	31,801	29,238	91.9
セグメント計	302,273	297,451	98.4
事業セグメントに配分していない 収益およびセグメント間取引消去	△21,082	△19,007	—
合計	281,191	278,443	99.0

(注) 販売金額には酒税を含んでおりますが、消費税等は含まれておりません。

## (2) 当期の財政状態の概況

## (資産)

当連結会計年度末における流動資産は183,108百万円となり、前連結会計年度末に比べ14,287百万円増加いたしました。これは主に手元資金を厚くするため有価証券を現金化したことや借入などで現金及び預金が18,973百万円増加したことによるものであります。

固定資産は123,810百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,748百万円増加いたしました。これは主にTakara Bio USA, Inc.の新事業所用土地・建物を取得したことなどにより有形固定資産が4,905百万円、時価の上昇などにより投資有価証券が6,203百万円それぞれ増加し、のれんの減少などにより無形固定資産が2,811百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、306,918百万円となり、前連結会計年度末に比べ23,036百万円増加いたしました。

**(負債)**

当連結会計年度末における流動負債は56,269百万円となり、前連結会計年度末に比べ802百万円増加いたしました。これは主に未払法人税等が2,135百万円、流動負債のその他が2,933百万円それぞれ増加し、1年内償還予定の社債が5,000百万円減少したことによるものであります。

固定負債は59,113百万円となり、前連結会計年度末に比べ12,027百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が10,017百万円、繰延税金負債が2,252百万円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、115,383百万円となり、前連結会計年度末に比べ12,830百万円増加いたしました。

**(純資産)**

当連結会計年度末における純資産合計は191,535百万円となり、前連結会計年度末に比べ10,206百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が6,619百万円、時価の上昇によりその他有価証券評価差額金が4,245百万円それぞれ増加し、円高により為替換算調整勘定が1,738百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は、51.1%(前連結会計年度末は52.1%)となりました。

**(3) 当期のキャッシュ・フローの概況**

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益20,583百万円、減価償却費8,068百万円、未払消費税等の増加1,722百万円、その他流動負債の増加2,442百万円、法人税等の支払額4,767百万円などで27,100百万円の収入と前年同期に比べ15,355百万円の収入増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出4,316百万円、定期預金の払戻による収入5,407百万円、有価証券の売却及び償還による収入4,455百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出13,911百万円、補助金の受取額1,900百万円などにより6,738百万円の支出と前年同期に比べ3,047百万円の支出増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入10,068百万円、社債の償還による支出5,000百万円、配当金の支払額3,951百万円、連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出1,761百万円などにより1,506百万円の支出と前年同期に比べ10,147百万円の支出減少となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物に係る換算差額を含めた当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より18,319百万円増加し、62,860百万円となりました。

**(4) 今後の見通し**

当社グループは、安定した事業と成長性のある事業を併せ持つ当社独自の事業ポートフォリオにおいて、それぞれの事業がしっかりと自立してグローバルに展開していくこと、そしてコロナ禍において各事業で顕在化した弱みに速やかに対処し、本来の強みを伸ばすことで、環境変化に強い事業基盤の構築を目指してまいります。

宝酒造では、新型コロナウイルス感染症の影響が継続することを前提とし、業務用向けは依然として厳しい状況が続くものの、家庭用向けの需要増を捉えることで売上高を拡大するとともに、商品ミックスの改善に向けた商品開発・育成による利益率向上や、コスト削減に引き続き取り組むことで、利益を創出し続ける企業体質へと進化していきます。

宝酒造インターナショナルグループでは、新型コロナウイルス感染症の影響は一進一退を繰り返しながらも段階的に回復していくという想定のもと、小売店向けの販路拡大やネット販売などチャネルの多角化への取り組みにより事業体質を強化するとともに、徹底的な販売費及び一般管理費の抑制に努めることで、成長軌道への早期回復を図ります。

タカラバイオグループは、新型コロナウイルスのPCR検査関連製品の安定的な供給や、ワクチンを含む再生医療等製品の製造体制整備に積極的に取り組むとともに、一般向け研究用試薬やCDMOサービス、遺伝子医療プロジェクトの推進にさらに注力することで、将来の飛躍的成長に繋げていく方針です。

これらの取り組みを進めることで、翌連結会計年度(2022年3月期)の連結業績見通しは、売上高264,000百万円、営業利益22,600百万円、経常利益23,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益11,900百万円を予想しております。連結業績予想の詳細及びセグメント別の業績予想につきましては、「決算短信補足資料」内(PAGE10/18~13/18)に記載しております。

なお、収益認識に関する会計基準等の適用に伴い、従来販売費及び一般管理費で処理していた費用の一部が売上高から控除されるため、従来の会計処理に比べ売上高が30,748百万円減少し、同額の販売費及び一般管理費が減少する見込みであります。この変更による営業利益以下への影響はありません。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。



## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	47,265	66,238
受取手形及び売掛金	54,670	55,074
電子記録債権	6,347	6,880
有価証券	7,352	1,145
商品及び製品	42,295	41,115
仕掛品	1,801	1,924
原材料及び貯蔵品	4,879	6,084
その他	4,515	5,161
貸倒引当金	△307	△516
流動資産合計	168,820	183,108
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	59,337	61,363
減価償却累計額	△35,189	△35,403
建物及び構築物(純額)	24,148	25,959
機械装置及び運搬具	86,331	86,657
減価償却累計額	△69,661	△71,247
機械装置及び運搬具(純額)	16,670	15,410
土地	18,337	20,640
リース資産	1,833	1,680
減価償却累計額	△586	△651
リース資産(純額)	1,247	1,029
建設仮勘定	1,531	4,027
その他	21,262	21,823
減価償却累計額	△13,362	△14,149
その他(純額)	7,900	7,673
有形固定資産合計	69,835	74,740
無形固定資産		
のれん	11,750	10,142
その他	6,950	5,746
無形固定資産合計	18,700	15,889
投資その他の資産		
投資有価証券	21,720	27,924
退職給付に係る資産	651	894
繰延税金資産	1,807	2,088
その他	2,414	2,341
貸倒引当金	△69	△69
投資その他の資産合計	26,525	33,180
固定資産合計	115,061	123,810
資産合計	283,882	306,918

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,440	16,481
短期借入金	4,787	5,166
1年内償還予定の社債	5,000	—
未払酒税	7,690	6,890
未払費用	5,511	6,455
未払法人税等	1,886	4,021
賞与引当金	2,513	2,727
販売促進引当金	2,094	2,049
その他	9,543	12,476
流動負債合計	55,466	56,269
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	5,448	15,465
リース債務	3,538	3,122
繰延税金負債	1,578	3,831
退職給付に係る負債	9,065	9,274
長期預り金	5,363	5,136
その他	2,092	2,283
固定負債合計	47,086	59,113
負債合計	102,553	115,383
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	2,454	2,292
利益剰余金	128,564	135,184
自己株式	△1,682	△1,682
株主資本合計	142,563	149,020
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,125	11,370
繰延ヘッジ損益	84	193
為替換算調整勘定	△1,102	△2,840
退職給付に係る調整累計額	△908	△859
その他の包括利益累計額合計	5,199	7,863
非支配株主持分	33,566	34,650
純資産合計	181,329	191,535
負債純資産合計	283,882	306,918

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
売上高	281,191	278,443
売上原価	172,574	162,849
売上総利益	108,617	115,594
販売費及び一般管理費	92,781	93,999
営業利益	15,836	21,595
営業外収益		
受取利息	309	179
受取配当金	601	528
不動産賃貸料	122	137
その他	424	466
営業外収益合計	1,458	1,311
営業外費用		
支払利息	403	344
棚卸資産廃棄損	43	127
その他	577	505
営業外費用合計	1,025	976
経常利益	16,269	21,929
特別利益		
投資有価証券売却益	1,130	2
国庫補助金	—	517
その他	342	9
特別利益合計	1,473	529
特別損失		
固定資産除売却損	319	295
固定資産圧縮損	—	517
減損損失	※1 880	※1 432
事業整理損	—	※2 458
環境対策引当金繰入額	415	—
その他	484	171
特別損失合計	2,099	1,875
税金等調整前当期純利益	15,643	20,583
法人税、住民税及び事業税	5,077	6,303
法人税等調整額	△125	23
法人税等合計	4,952	6,326
当期純利益	10,691	14,256
非支配株主に帰属する当期純利益	1,710	3,682
親会社株主に帰属する当期純利益	8,980	10,574

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
当期純利益	10,691	14,256
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,689	4,245
繰延ヘッジ損益	△30	108
為替換算調整勘定	△1,160	△2,342
退職給付に係る調整額	△343	51
その他の包括利益合計	△4,223	2,063
包括利益	6,467	16,320
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	5,046	13,238
非支配株主に係る包括利益	1,421	3,081

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,226	2,417	124,788	△1,368	139,064
会計方針の変更による累積的影響額			75		75
会計方針の変更を反映した当期首残高	13,226	2,417	124,863	△1,368	139,139
当期変動額					
剰余金の配当			△3,593		△3,593
親会社株主に帰属する当期純利益			8,980		8,980
自己株式の取得				△2,000	△2,000
自己株式の処分					
自己株式の消却		△1,686		1,686	—
連結子会社株式の取得による持分の増減		36			36
利益剰余金から資本剰余金への振替		1,686	△1,686		—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	36	3,700	△313	3,423
当期末残高	13,226	2,454	128,564	△1,682	142,563

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	9,814	114	△196	△599	9,133	31,597	179,795
会計方針の変更による累積的影響額						48	123
会計方針の変更を反映した当期首残高	9,814	114	△196	△599	9,133	31,645	179,918
当期変動額							
剰余金の配当							△3,593
親会社株主に帰属する当期純利益							8,980
自己株式の取得							△2,000
自己株式の処分							
自己株式の消却							—
連結子会社株式の取得による持分の増減							36
利益剰余金から資本剰余金への振替							—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△2,689	△30	△905	△308	△3,934	1,921	△2,013
当期変動額合計	△2,689	△30	△905	△308	△3,934	1,921	1,410
当期末残高	7,125	84	△1,102	△908	5,199	33,566	181,329

当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位: 百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,226	2,454	128,564	△1,682	142,563
当期変動額					
剰余金の配当			△3,954		△3,954
親会社株主に帰属する当期純利益			10,574		10,574
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△0		0	0
連結子会社株式の取得による持分の増減		△161			△161
利益剰余金から資本剰余金への振替		0	△0		-
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	-	△161	6,619	△0	6,457
当期末残高	13,226	2,292	135,184	△1,682	149,020

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	7,125	84	△1,102	△908	5,199	33,566	181,329
当期変動額							
剰余金の配当							△3,954
親会社株主に帰属する当期純利益							10,574
自己株式の取得							△0
自己株式の処分							0
連結子会社株式の取得による持分の増減							△161
利益剰余金から資本剰余金への振替							-
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	4,245	108	△1,738	48	2,664	1,083	3,748
当期変動額合計	4,245	108	△1,738	48	2,664	1,083	10,206
当期末残高	11,370	193	△2,840	△859	7,863	34,650	191,535

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	15,643	20,583
減価償却費	7,626	8,068
減損損失	880	432
事業整理損	—	458
のれん償却額	847	865
環境対策引当金の増減額 (△は減少)	408	△412
受取利息及び受取配当金	△911	△707
支払利息	403	344
固定資産除売却損益 (△は益)	268	291
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,291	△1,162
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,159	△691
仕入債務の増減額 (△は減少)	△340	40
未払酒税の増減額 (△は減少)	△2,534	△799
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△994	1,722
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△595	2,442
その他	△65	△128
小計	16,188	31,347
利息及び配当金の受取額	917	703
利息の支払額	△405	△364
法人税等の支払額	△4,955	△4,767
補助金の受取額	—	181
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,744	27,100
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△6,785	△4,316
定期預金の払戻による収入	10,564	5,407
有価証券の取得による支出	△8,478	—
有価証券の売却及び償還による収入	11,507	4,455
有形及び無形固定資産の取得による支出	△12,121	△13,911
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	350	—
補助金の受取額	—	1,900
その他	1,270	△273
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,690	△6,738
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	100	10,068
長期借入金の返済による支出	△5,160	△60
社債の償還による支出	—	△5,000
コマーシャル・ペーパーの発行による収入	—	5,000
コマーシャル・ペーパーの償還による支出	—	△5,000
配当金の支払額	△3,589	△3,951
リース債務の返済による支出	△641	△689
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△1,761
その他	△2,362	△112
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,653	△1,506
現金及び現金同等物に係る換算差額	△439	△536
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,039	18,319
現金及び現金同等物の期首残高	48,580	44,541
現金及び現金同等物の期末残高	44,541	62,860

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

## (連結損益計算書関係)

## ※1 減損損失

当社グループは、減損の兆候を判定するにあたり、重要な遊休不動産等を除き、主として事業会社ごとを1つの資産グループとして資産のグルーピングを行っており、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位: 百万円)

場所	用途	種類及び減損損失					合計
		建物及び構築物	機械装置及び運搬具	その他	土地	無形固定資産	
(タカラバイオ株式会社) 三重県四日市市	遊休資産	272	0	1	387	0	662
(タカラバイオ株式会社) 滋賀県草津市	遊休資産	186	28	3	-	-	218
合計		458	28	5	387	0	880

## (1) 減損損失を認識するに至った経緯

将来の利用見込がなくなったことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上いたしました。

## (2) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、三重県四日市市の遊休資産については正味売却価額により測定しており、合理的に算定された価額(不動産鑑定評価等)に基づき算定しております。滋賀県草津市の遊休資産については使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローが見込まれないため、回収可能価額を零として評価しております。

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位: 百万円)

場所	用途	種類	金額
(Nippon Food Supplies Company Pty Ltd) 豪州シドニー市	その他	のれん	432
合計			432

## 減損損失を認識するに至った経緯

連結子会社であるNippon Food Supplies Company Pty Ltdの業績が同社株式取得時の計画を下回って推移し、収益性の低下がみられたことから、宝酒造インターナショナル株式会社の個別決算において、同社株式の実質価額の下落にともなう株式の評価減を行い、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」(会計制度委員会報告第7号 2018年2月16日)第32項の規定に基づきのれんを全額償却し減損損失として特別損失に計上しております。

## ※2 事業整理損

タカラバイオグループにおいて、次世代シーケンスライブラリー作製装置関連事業の整理にともない、特別損失を計上いたしました。主な内訳は、減損損失360百万円、棚卸資産評価損97百万円であり、減損損失の内容は次のとおりであります。

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位: 百万円)

場所	用途	種類及び減損損失			合計
		機械装置及び運搬具	有形固定資産(その他)	無形固定資産(その他)	
(Takara Bio USA, Inc. 他) 米国マウンテンビュー市他	処分予定資産	3	3	353	360
合計		3	3	353	360



## (1) 減損損失を認識するに至った経緯

関連事業の整理にともない、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を「事業整理損」に含めて特別損失に計上しております。

## (2) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値により算定しております。

## (セグメント情報)

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業会社である「宝酒造(株)」「宝酒造インターナショナル(株)」「タカラバイオ(株)」を中核企業とする各企業グループ及びその他で構成されており、当社は各事業会社を統括する持株会社であります。各事業会社は、各々取り扱う製品・商品やサービスについて国内あるいは海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社グループは、製品・商品やサービスの内容を基本としながらも、経営責任・業績評価の単位を重視し、「宝酒造」「宝酒造インターナショナルグループ」及び「タカラバイオグループ」の3つを報告セグメントとしております。

「宝酒造」は、主に国内における酒類・調味料の製造・販売を行っております。「宝酒造インターナショナルグループ」は、日本からの酒類の輸出、海外における酒類の製造・販売や日本食材卸事業を行っております。「タカラバイオグループ」は、研究用試薬・理化学機器事業とCDMO事業を通じ、バイオ創薬基盤技術開発を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成に用いた会計処理基準と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。また、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自2019年4月1日 至2020年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造イ ンターナ ショナル グループ	タカラバ イオグル ープ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	152,496	82,456	34,563	269,516	11,670	281,186	5	281,191
セグメント間の内部 売上高又は振替高	644	309	1	955	20,131	21,087	△21,087	—
計	153,141	82,765	34,565	270,472	31,801	302,273	△21,082	281,191
セグメント利益	4,175	3,532	6,274	13,982	2,018	16,001	△164	15,836
セグメント資産	93,083	75,183	75,009	243,276	19,577	262,853	21,028	283,882
その他の項目								
減価償却費	2,736	1,434	2,921	7,093	216	7,309	317	7,626
のれんの償却額	—	350	496	847	—	847	—	847
持分法適用会社への 投資額	—	—	—	—	—	—	1,608	1,608
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	5,520	2,696	5,365	13,582	219	13,802	393	14,195

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業及び国内グループ会社の物流事業等であります。
2. 調整額の内容は以下のとおりであります。
- (1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した業務受託収入であります。
  - (2) セグメント利益は、セグメント間取引消去57百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△222百万円であります。
  - (3) セグメント資産は、事業セグメントに配分していない当社の資産51,819百万円、その他の調整額（主としてセグメント間取引消去）△30,791百万円であります。当社に係る資産は、余資運用資金や長期投資資金などであります。
  - (4) 減価償却費は、主として当社において計上した減価償却費であります。
  - (5) 持分法適用会社への投資額は、事業セグメントに配分していない持分法適用会社への投資額であります。
  - (6) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、事業セグメントに配分していない当社の増加額493百万円、セグメント間取引消去△99百万円であります。
3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自2020年4月1日 至2021年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造イ ンターナ ショナル グループ	タカラバ イオグル ープ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	151,972	69,348	46,086	267,407	11,036	278,443	0	278,443
セグメント間の内部 売上高又は振替高	564	240	0	805	18,202	19,007	△19,007	—
計	152,537	69,589	46,086	268,213	29,238	297,451	△19,007	278,443
セグメント利益	4,879	1,043	13,952	19,875	1,803	21,679	△84	21,595
セグメント資産	90,221	74,373	89,750	254,344	19,932	274,277	32,641	306,918
その他の項目								
減価償却費	2,848	1,430	3,220	7,498	233	7,732	336	8,068
のれんの償却額	—	379	486	865	—	865	—	865
持分法適用会社への 投資額	—	—	—	—	—	—	1,727	1,727
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	1,430	2,802	8,897	13,130	334	13,464	310	13,775

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業及び国内グループ会社の物流事業等であります。
2. 調整額の内容は以下のとおりであります。
- (1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した業務受託収入であります。
  - (2) セグメント利益は、セグメント間取引消去69百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△153百万円であります。
  - (3) セグメント資産は、事業セグメントに配分していない当社の資産62,585百万円、その他の調整額（主としてセグメント間取引消去）△29,944百万円であります。当社に係る資産は、余資運用資金や長期投資資金などあります。
  - (4) 減価償却費は、主として当社において計上した減価償却費であります。
  - (5) 持分法適用会社への投資額は、事業セグメントに配分していない持分法適用会社への投資額であります。
  - (6) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、事業セグメントに配分していない当社の増加額310百万円あります。
3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

前連結会計年度(自2019年4月1日 至2020年3月31日)

(単位: 百万円)

	宝酒造	宝酒造インターナショナルグループ	タカラバイオグループ	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	—	880	—	—	880

当連結会計年度(自2020年4月1日 至2021年3月31日)

(単位: 百万円)

	宝酒造	宝酒造インターナショナルグループ	タカラバイオグループ	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	432	360	—	—	793

(注) 「タカラバイオグループ」セグメントにおいて、次世代シーケンスライブラリー作製装置関連事業の整理にともない、減損損失360百万円を計上しております。なお、当該減損損失は、関連する損失と合わせて特別損失の「事業整理損」として計上しております。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
1株当たり純資産額	747.39円	793.53円
1株当たり当期純利益	45.11円	53.48円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	181,329	191,535
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	33,566	34,650
(うち非支配株主持分(百万円))	(33,566)	(34,650)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	147,762	156,884
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	197,704	197,704

3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	8,980	10,574
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	8,980	10,574
普通株式の期中平均株式数(千株)	199,062	197,704

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。